



大洲高校 PTA 月報



EHIME. OZU. HIGH SCHOOL

令和8年7月号

割れ窓理論

生徒課 伊藤 圭一

皆さんは「割れ窓理論」という考え方を知っていますか。建物の窓ガラスが一枚割れたまま放置されていると、「ここは誰も気にしていない場所だ」というサインになり、やがて他の窓も次々に割られ、周りの環境全体が荒れていくというものです。小さな乱れやルール違反をそのままにしておくと、周囲の人の意識もゆるみ、やがて大きな問題につながっていくという、環境犯罪学の理論です。

授業にしっかり向き合い、行事や部活動にも一生懸命取り組む生徒の姿は、本校の大きな誇りです。教室で静かに授業を受ける態度、廊下ですれ違うときの挨拶、掃除時間に自分の役割を黙々と果たす姿など、日常のさりげない行動の一つ一つが、本校の落ち着いた雰囲気を作り出しています。

割れ窓理論の視点から見ると、この「当たり前に見える良さ」を大切に続けることが、とても重要になります。例えば、教室の床に落ちているプリントをそっと拾うこと、曲がっているトイレのスリッパをそろえること、掲示物がはがれかけていたら貼り直すこと。こうした小さな行動は目立たないかもしれませんが、「この学校を大切にしたい」という気持ちの表れであり、周りの人にも安心感を与えます。

逆に、もし小さな乱れをそのままにしまうとどうなるでしょうか。「これくらいならいいか」という空気が少しずつ広がり、やがては遅刻や私語、友達への心ない言葉など、より大きな乱れにつながるおそれがあります。割れ窓理論は、「小さな乱れを放置しないことが、大きな問題を防ぐことにつながる」という点を教えてくれます。

割れた窓をすぐに直すように、小さな乱れや気になるサインに気づいたとき、「ここを大切にしよう」と一歩踏み出せる人が多い学校は、自然と温かく落ち着いた雰囲気に包まれます。これからは生徒の皆さん、保護者の皆様と共に、本校の良き伝統を引き継ぎながら、「安心して通える学校」であり続けたいと願っています。